

■実施概要

日時 令和7年12月10日（水）

場所 大谷中学校 校長室

参加者 9名

出席者：熊澤・秋庭・石井・吹越・大塚・鈴木・吉田・岩崎 小林校長

欠席者：雅樂川・大矢（教頭）・竹島（教務主任）

1. 学校見学・授業参観

【見学の様子】

■1学年・2学年 総合的な学習の時間の授業参観

吉田：落ち着いた雰囲気での学習している。

岩崎：時代が変わった、全員がPCを机の上に出している。

（※市教委・NTT 来校 Wi-Fi 調査のため）

秋庭：総合的な学習、子どもたちの興味関心に合わせて授業、学びが進化している。

熊澤：いろいろなスタイルでの学び、自分のテーマをもって学習に取り組んでいる。

2年生の職場体験、子どもたちの期待が膨らむと思う。

石井：先生方の授業スタイルが、時代を反映している。

iPad や PC を駆使して、子どもたちにより身近な情報が出せている。

大塚：お囃子に來ている子たちの学校で頑張る様子を見ることができてよかった。

岩崎：〇〇君、自分がやるべきことについて、少し自覚できるようになったと思われる。

みんなと一緒にできるようになると期待している。

応援していきたい。

2-①. 学校運営及び教育活動の今後について

(1) 全国・学力学習状況調査の結果

【子どもたちの学力】

熊澤：子どもたちは、多様な学びを、多様な方法で得ることができる今、仲間と協働的に学習することで学びに付加価値が生まれる。

先生の役割は、学びの基盤となることをしっかり教え、気づかせ、知識に変えることが大切だが、もっと大切なのは、その学びをいかせる環境を作ること、その学びを仲間と共有し、さらに価値のあることに高めていくこと。

校長：令和5年度より、段階的に単元ごとの評価を行うようにし、その一つとして単元テストを導入している。

客観的に見ると、先生も子どもたちも負担感が大きいのではとも思っている。

特に、単元ごとの評価になったことで、子どもたちは、各授業の「ふりかえり」だけではなく、各教科の課題提出に迫られる傾向がある。子どもたちも多忙感を感じているのでは。

秋庭：子どもたちの学習習慣の定着を考えると、単元ごとの評価はいいと思うが、子どもたちは部活動、そのあと学習塾（ならいごと）で忙しい。その半面、やらない子ども（または学習しない子ども）は、まったく学習に取り組まないでゲームやスマホ、そんな子どもたちの間に学力の

差が出るのではないか。

石井：單元ごとの評価はいいと思うが、それだけ先生や子どもたちが忙しいという話を聞くと、体験的な学びから子どもたちが気づきや発見を得て、さらに深めるような学び方ができないのではと気になる。

校長：子どもたち・先生方の授業参観をよくさせてもらう。授業のスタイルとしては、知識注入型や理解暗記型の授業はあまり見ない。

むしろ、子どもたちの体験的な学びやグループでの課題解決型の協働的な学びの場面が主流となり、子どもたちは、どの教科でも探究的な学習を進めている。

【社会を創る担い手】

校長：子どもたちは、社会や地域に貢献していきたい思いはあるが、どのようなかかわりをもてばいいのか、どのような場面に参加すればいいのか、どのような人を頼ればいいのか課題となっている。

今年度は、大谷中学校が地域とともにある学校として、どの学年も地域や人材を活用した学習を進めている。

その中で、地域と円滑につながっていくことは、学校の思いだけではなく、地域がどのように受け止めてくれるかが重要であると感じた。

日頃から、顔の見えるかかわりが必要だと思う。

岩崎：子どもたちが、地域の行事や自治会の活動に参加してくれることは価値あること。地域も助かっている。中学生とは言え、自分で判断して行動できる姿は大きな力になる。

熊澤：子どもたちは望んで参加しているのか。

私はボランティアが好きで、前任校ではボランティア部を作って、子どもたちと一緒に参加していた。

やはり、持続可能にしていくためには、子どもたちが先生以外の大人から評価を受けることが大きな要因になる。

我々大人が、積極的に、子どもを社会の一員と認め、大きな評価と感謝をすることが、社会を担う子どもたちを育てることになる。

秋庭：子どもたちが社会で活躍してくれることは地域にとってありがたいこと。

でも、子どもたちの忙しさは否めない、なので、子どもたちが参加しやすいように、教育課程に位置づけたり、放課後活動として社会貢献や地域貢献できる活動を組み立てたりしていくことも大切かもしれない。日常的に社会活動していくことがあたりまえになってほしい。

大塚：お囃子にくる子たちは、お囃子がやりたくて習いに来ている。お囃子のメンバーとして地域活動に参加させてもらっているが、子どもたちの満足度は非常に高い。

そんな風に考えると、子どもたちから、自分たちが地域のためにやりたいことを提案し、自分たちの計画で地域貢献する形で、地域の方がフォローしていく形もありかと思う。

（２）学校評価アンケート

【生徒用アンケート】

校長：本校の生徒については、「学校生活は楽しい」「友達にやさしくする」等の項目では、他者理解や他者尊重、他者との協働という視点では成果の見られる結果であるが、「自分には、よいところがある。」（自己肯定感）については、学力学習状況調査においても、課題を示されているのと同様に教育活動アンケートでも課題が残る。

このことを踏まえ、子どもたちの自己肯定感や自尊感情を高めていくために何ができるのかについてご助言いただきたい。

秋庭：この評価は妥当かもしれない。子どもたちの発達段階から考えると、「思春期」のこの時期、他者との関係性や家族関係でも自己調整が難しくなる。その中、自分のことが大好きですよという生徒はあまりいないし、それが通常の思春期の子どもたちの心情なのではないか。

熊澤：子どもたちは、自分がどのように見られているのかをととても気にする時期である。子どもたちの自尊感情を高めるにあたって、重要なのは、周りの人、先生でも、家族でも、地域の人でも、子どもたちの結果ではなく、その頑張りの過程を評価してあげることかなと思っている。

熊澤：視点を変えるが、朝学習と書いてある。朝読書はやめてしまって、モジュール授業を取り入れているのか。

小林：朝読書をやめたわけではなく、学年・学級担任の意向を尊重する形で、「朝読書」「朝学習」「朝読書・朝学習の併用」などの形で、学年等の裁量で実施している。

どちらの取組も、子どもたちは集中して取り組み、成果を上げている。

【保護者アンケート】

校長：一番の課題は、保護者の回答数が少ないこと、今回の回答率は19%しかない。

秋庭：方法に問題があるかもしれない。学校からの配信の内容、保護者は意識が高い人しか見ていない可能性があるのと、なかなかファイルまで開かないかもしれないかもしれない。今後実施方法を見直してみてもいいと思う。

岩崎：お母さんたちは、忙しい中、市教委や学校から、たくさんのLINE（お知らせ）が来ても、対応しきれていない。見ていないというよりは、見る時間の確保が難しい。

小林：回答率が低いので、有効な回答とは言えないかもしれないが、3「家の清掃を進んで行っている」については、年々、肯定的な回答が下がっている傾向にある。思いつく理由はあるか。

吹越：子どもたちが当たり前のように、家の手伝いをする時代は終わっていると感じている。

鈴木：家で掃除をする姿は見たことがない。

大塚：私も同様、家で片づけをする姿を見たことがない。

吹越：この質問の趣旨は何だろうか。

熊澤：これも時代背景かもしれないが、昔の子どもたちは、お手伝いをして、家族の一員としての自覚を高めていたが、保護者が忙しくなっている中、こどもたちが家でどのような生活をしているかを管理しきれていない。

岩崎：あまり子どもたちに、弟・妹の面倒を見させても、家のことをやらせてもヤングケアラーなんて言われてしまうから、容易に頼めないのでは。

秋庭：昔は家庭訪問という文化があって、家族総動員で家の片づけをしていたり、担任の先生が、自分の部屋を見に来るから一生懸命に部屋の片づけをしていたかもしれないが、遠い昔の話になってしまった。

3. 学校より「子どもたちと語り合おう」

（1）第3学年

- ・キャリア学習（A-MAP）
- ・卒業記念制作
- ・卒業記念イベント

秋庭：みなさん卒業が目の前ですね。

受験勉強も追い込みかと思う中、よくこれだけのことを考え、準備していますね。

そして、みなさんの説明の仕方もととても上手だし、パソコンを使っのプレゼンテーションとても説得力がありましたよ。校歌板、みなさんが学校の誇りを大切にし、それを生まれかわらせてくれたこと、本当にうれしいです。体育館が新しくなっ、校歌板が古いままより、これから先、みんなが過ごしていく中で、体育館の新しい歴史と共に、新たな校歌板が残っていくことは伝統を引き継ぐことになりますね。

秋庭：卒業制作も受験勉強と並行して進めていくことは、とてもうれしいです。あなたたちが、この学校を思い出に思うとともに、貴重な日々を過ごした証になるかなと思います。

ぜひとも、卒業制作のこの掲示板に、一人一人の足跡（コメント）を残してほしいなと思っています。

石井：掲示板には、あなた方3年生が残したことがわかるように、最初の掲示物は、自分たちがこの学校のためにしてきた写真とかを張っはどうですか。

在校生は、この写真を見て、ますますみなさんへのあこがれを抱くと思うけど。

鈴木：せっかく残してくれるなら、みなさんがどういう思いで残していくかを、在校生に伝える場面があるといいなと思うのですが、どうでしょうか。

鈴木：P T Aからも皆さんの卒業を記念して、お祝いして一緒に活動させてもらえればと思うのですがいかがでしょうか。去年の3年生は、シークレットライブをしているけど、みなさんのお楽しみ会では、みなさんから、こんなことをやってほしいとかお手伝いしてほしいなどの計画はありますか。

鈴木：P T Aが主催で、みなさんのお時間をお借りしてもいいですか。

みなさん、ポップコーンという地元アーティストがいるのだけど知っていますか。

昨年度も、大谷中学校で凱旋のシークレットライブをしています。

このポップコーンのお二人に、大谷中学校アンバサダーとして今後活躍してもらいたいと思っています。皆さんのお時間にお呼びしたいのですが。

みなさんだけの話にしておいてほしいです。内緒で進めたいので。この計画を進めてもいいですか。

校長：日程等の調整は学校とP T Aで進めさせてください。

せっかくですから、保護者の方も委員の皆さんも、地域の方もこられるといいかもしれません。

吉田：体育館は使えるのですか。

校長：工事の進捗は市内で一番進んでいると思います。3月には使える見通しでいます。

工事請負業者と確認をしていきます。

（2）第1学年

・稲作活動

・1年生の取組について

校長：みなさん、本当に中学校に入学して。これまでたくさんの経験をしてたくましくなりましたね、経験したことを地域の方に丁寧にお伝えしてくれてありがとう。

大塚：今、稲作活動についてお話があったと思うけど。

みなさんで力を合わせて、稲を発芽させるところからやってくれてありがとう。

田植えも収穫もいろいろ経験してもらえたことうれしく思っています。

今年は、収穫が、去年より少し少なかったと思うけど、市民祭りで販売してくれたり、そのお

米を今度どのように活用していこうか話し合い発表してくれたり、稲わらの活用まで考えてくれたり本当に、お米を大切にしてくれていることがよくわかって、うれしく思います。

鈴木：収穫したお米いただきました。本当においしかったです。

稲作活動には、保護者の方もたくさん興味があり、多くのボランティアの方が参加してくれました。

（３）第２学年

①Work Shop Land（以下WSL）の実施と協力依頼

- ・ 具体的な展望
- ・ スケジュール感
- ・ 協力依頼

熊澤：職場体験とWSLがどのような形でつながっていくのかがわからない。職場体験で得たことを形変えて行っていくことかしら。

岩崎：子どもたちで30のブースを出すことはいいと思うけど、準備とか間に合いますか

それから、みなさんのお仕事の経験で得たことを、みなさんがお店を出すことで、何を理解してもらって、なにを評価してもらいたいのかがわからない。

大塚：文化祭みたいにしたいのかな。

岩崎：地域に貢献・感謝と言っているけど、自分たちだけが楽しいで終わらないでほしいと思うよ。

鈴木：PTAとしてはドーナツの販売をする予定ですが、生徒の皆さんと一緒に活動できると考えていたのですが、残念です。

大塚：うちも、WSLに参加します。「地場産」の野菜を一緒に育てて、販売することにしています。子どもたちが一緒に参加することになっていますよ。

校長：もう一度、全体の整理をする必要がありますね。食料品の販売に関しては保健所の許可がいると思うけど、あと、3か月しかないから、みんなが見通しをもてる段取りを実行委員会で組んでください。最後に、外から招く業者との打ち合わせやどんな目的で出店してくれるのか確認したり、当日の運営方針を伝えたりなどの説明会も準備を進めてほしいです。私のほうからも、みなさんを代表してご挨拶させてください。実行委員の皆さんもブースをもつのですか、実行委員は当日の運営のビジョンをしっかりとっていてほしいなと思います。

皆さんから、委員さんに依頼したいことはありますか。

岩崎：地域の方に、みなさんの取組をアナウンスすることはできるよ。

自治会の掲示板や回覧板を活用していくことはできるから、その時には頼ってください。

地域貢献・感謝と、みなさんが職場体験をとおして学んだことがどのようにつながっているのかが見えてこないの、インフォメーションをどのようにしたらよいか迷うところです。

校長：改めて、2月の学校運営協議会で、コンセプトや具体的なねらい・目的を皆さんにお伝えできるようにします。今日のご意見はとても参考になったと思います。

また、青健連の会議でも、必要があれば私から説明します。

校長：広報部の皆さん伝えてください。

2月の回覧板 1月20日締め切り 「ダイジェスト版」の配付

3月の回覧板 2月20日締め切り 「詳細版」各世帯分・・・来ていただける仕掛けが必要

②地域貢献活動

岩崎：誰かに評価してもらうために、やってるのではなく、自分の意志でやっているところに好感が

もてます。

秋庭：ボランティア、無理することなくやりたいとのことだけど、これだけたくさんの回数に参加しているのは、日常のあたりまえになってきているのかなと思うと、うれしく思います。

校長：ボランティアで協働的に活動していることはすごく頼もしいけど、そこに付加価値をつけてくれるといいなと思っています。

地域の方と触れ合ったり、日常の毎日で地域にできることを見つけてみたりしてほしいなと思います。

大塚：最近、ボランティアに参加する子どもたちが固定的なメンバーになってきているようだけど、ほかにも参加したい子たちがいるのではと思っています。もちろん子どもたちの意志で参加してほしいのですが。

岩崎：地域の方は高齢化が進んでいる中、あなたたちのような中学生が参加してくれることで、地域が明るくなるし活性化していく気がします。

本当に、地域の皆さんは、中学生がボランティアに参加してくれることで、助けられていますよ。地域を代表してお礼をします。

熊澤：お礼をされるためにやっているのではないと言っているけど、校内でどうか紹介して幅広くこの子たちの頑張りを伝えとともに、機会があれば大塚さんがおっしゃられたとおりほかの子たちも参加できるような場面を考えてほしいです。

※以降は、会議終了時間の関係で主に熟議というよりは報告のみの対応

2-②. 学校運営及び教育活動の今後について

(3) 学校予算 特色ある学校推進事業費について

小林：今年度は WSL について、追加で 10 万円の予算が加算されている。そのことを踏まえると、令和 8 年度は 10 万円減で予算案を立案。

詳細については、「地域力を活用した稲作活動」に係る予算が 4 万円増。このことは稲刈りの際の農業機器のレンタル、脱穀に係る費用になる。このことについては、今まで中部営農組合の方のご厚意により、対応していただいたが、昨今の物価高騰等も踏まえ、本校の稲作活動を持続可能なものとしていくために、協力者等にご負担がかからないよう予算措置をさせていただいた。

あわせて、この 4 万円を捻出するために、「校内研究および教職員研修」に係る予算を 3 万円減にて対応させていただいた。

大塚：学校の 8 年度予算、稲作活動に係る部分について特段な配慮をしていただき感謝する。1 学年の稲作活動にて 30 万円ほどの経費を計上していただいていること感謝するが、教育活動の一環で実施していただく中、学校予算のおおむね 3 分の 2 を稲作活動に計上していただいていること、合わせて、小職員の研修費を減じて稲作活動に充てていただいていることは、お預かりさせてもらって、組合長と協議をさせていただきたいと思うので、ご承知おきいただきたい。

熊澤：この物価高騰下にあって、学校予算を確保していくことは大きな課題かと思う。先生方の研修を充実していくことは、子どもたちの学びに返っていく部分になりますので、有効に効果的に活用をお願いしたい。

小林：現予算案についてご承認いただけるか

※拍手全員をもって承認

小林：ありがとうございます。

(4) 今後のPTA活動について

- ・試食会 ・制服バザー
- ・卒業記念
- ・ボランティア制
- ・青健連の行事等
- ・今後の課題

鈴木：今年度から、社会情勢や各家庭の状況を踏まえ、PTA活動を見直し、組織を改編した。具体的には、常置委員会を廃止した。このことについては個人が抱えるPTAの仕事の負担感を軽減するとともに、だれもが参加できるボランティア制を導入した。
この取り組みにより、保護者が学校教育活動への興味関心が高まり、稲作や合唱祭のボランティアにはたくさんの保護者が参加するようになった。

一方で、本部には運営部・企画調整部に分けて組織しているが、初年度ということもあり、今年度は本部全員で活動に参加している。その分、本部に係る負担は増えている。

これまで発行してきた広報誌「しらかし」の発行を見直し、LINE オープンチャットを導入して、リアルタイムに情報を発信するようにした。また、本部役員と学校をつなぐツールとしてはLINEWORKSを活用して、今後情報連携していく仕組みを整えている。
また、常置委員会をなくしたことで、おもなPTAの活動としては、学校教育活動に伴走し、子どもたちや先生方と協働的に支援することにその目的を置いている。

主な取り組みとしては次の通りとなる。

- 第1学年 稲作活動
- 第2学年 Work Shop Land
- 第3学年 卒業記念事業の支援

PTA独自の事業に関しては、給食試食会を実施するとともに、同日開催で制服リサイクルバザーを実施した。今年度からPTA加入の任意化（または任意加入への変更）に伴い、大谷中では「非加入届」により意思確認をした。この二つの事業についてもLINE オープンチャットでの募集を行ったので、実質的には会員優遇のサービスとなった。

今後については、PTA本部役員のなり手の確保、PTA非加入者の抑制、開校50周年に向けた地域と学校との協働等多くの対応すべきことはあるが、できる形でできることを進めていきたい。

※以降、今回は時間の都合上、案件としては扱わなかった

(5) その他・・・以下の項目から選択

- ・合唱祭 ・体育祭
- ・教育課程 ・学校教育目標

(6) 地域とともにある学校

- ・学状の結果より
- ・地域のめざす「おとな」の姿
- ・地域で育てたい「こども」の姿